KC#697

6 章 2 節[1.4.2]

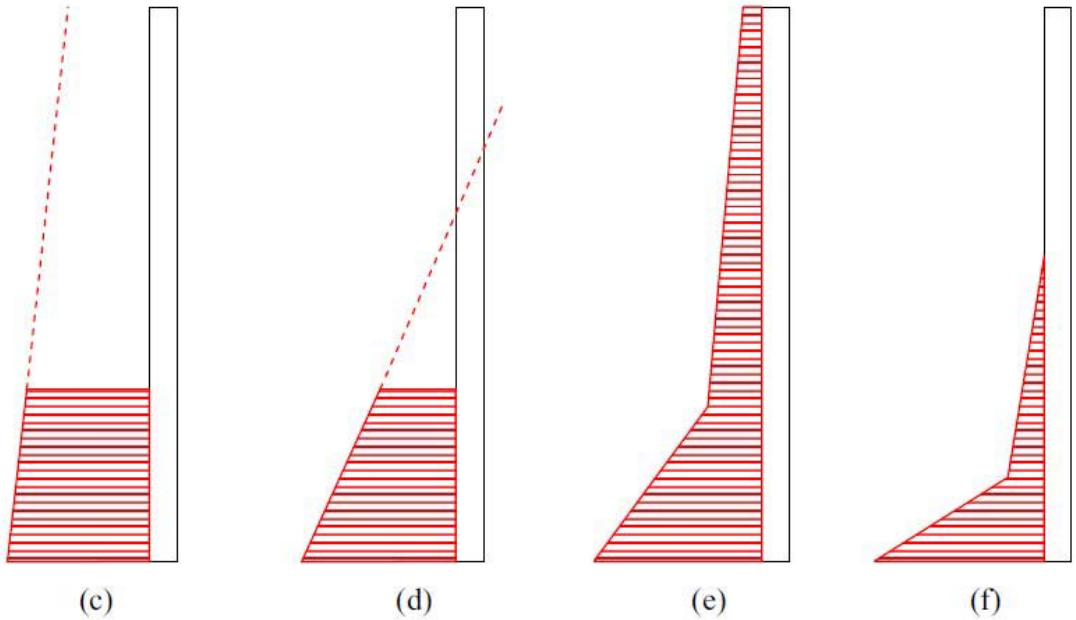
この条項の算式は、圧力 p を次の２つのケースに分けている。:

(a) 防撓材の全長にわたり圧力が作用する場合

(b) 防撓材の高さの一部のみに圧力が作用する場合

両方のケースとも、圧力曲線の傾斜は一定とする仮定の元に有効となっている。

両側から荷重が作用する構造に適用する場合、以下のような追加の圧力の分布が考えられる。



例えば (c)から(f)の例の場合、6 章 2 節[3.2.3]で使用される圧力 p はどのように計算されるのか？